

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-35

学校名・団体名	中央市立豊富小学校
HPアドレス	http://www.toyotomi.city-chuo.ed.jp/index.html
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	自ら学び、考える児童の育成 ～「学び合い」を通して～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>授業づくりでは、児童相互の「学び合い」を授業の中で組織し、学び合いを深めるための手立てを工夫して授業を改善していくことにより、学習への意欲や思考力を高め、確実な理解を実現し、学びの実感をもたせる。</p> <p>また、学び合いの学習を支える学習基盤づくり（基礎・基本の定着、学習集団づくり、学習環境づくり）にも計画的に取り組むことにより、トータルに「自ら学び、考える児童の育成」に取り組んでいく。</p>	

1. 研究のねらい

児童の思考を促すため「学び合い」を大切にしたい授業づくりを研究し、授業を改善するとともに、学び合う学習の基盤づくり（基礎基本の定着・学習集団作り・学習環境づくり）に取り組むことにより、自ら学び、考える児童を育成する。

2. 研究の内容

(1) 研究の重点

- ア 授業（算数科・理科）に「学び合いを深める9つの手立て」を取り入れ、授業改善を図る。
- イ 学び合う学習の基盤づくり（基礎基本の定着・学習集団づくり・学習環境づくり）を行う。

3. 研究の実際

(1) 授業づくり

今年度は、「9つの学び合いを深める手立て」のうち、特にイ) 学び合いに必要なスキルの習得・ク) 授業過程の工夫・ケ) 見通し・まとめ・振り返りを中心に実践を行った。

児童の学習への意識調査（5月・12月）を行い、実態の把握と研究成果の検証を行った。

低・高学年の2つのブロックで、実態分析からブロックの研究の重点を決め、日常の実践を行うとともに、学び合いに必要なスキル（話す・聞く・話し合う・書く）の学年系統表を作成し、指導を行った。さらに、一人一実践の授業開示（算数7本・理科1本）やブロック実践提案授業（3年算数「はしたの大きさの表し方を考えよう」・4年 算数「ちがいに目をつけて 図を使って考える」）を行い、教師同士の学び合いの場とした。

また、全国学力・学習状況テスト（6年）、山梨県の学力把握調査（3・5年）、CRT 学力テスト（全学年）を実施し、結果を分析・検討し、研究成果の検証及び、授業改善や補充学習を行った。

(2) 学習基盤づくり

- ・「基礎基本の定着」では、朝の学習の時間を使って、計画的に国語の読み・書きや算数の計算習熟・読書などに取り組んだ。
- ・「学習集団づくり」では、5月と11月にQ-U検査を行い、学習会で講師から学んだことをもとに分析を行い、学級づくりシートを用いて、目標を定めて継続的に学級集団づくりと振り返りを行ってきた。
- ・「学習環境づくり」では、授業の受け方の指針となる「とよとみルール」を提示・周知・振り返りと取組を行い、落ち着いた授業を受けられる環境づくりに努めた。また、家庭学習の指針となる「家庭学習の手引き」を配布して、保護者への啓発を行い、各家庭で話し合っ決めて「我が家のおきて・家庭学習」について、家庭学習・生活カードを用いて、定期的にチェックし、取り組んでいけるようにした。また、学習環境通信を発行し、保護者の取組意欲が継続・向上するように取り組んだ。

4. 成果

- 学習への意識調査やQ-U検査でクラスの実態や児童の様子を客観的に捉えることができ、学級集団づくりや授業改造を計画的に行うことができた。
- 全学年学力テストを行い、分析することで、授業改善の効果を検証することが出来、児童の学習の定着の度合いを知り、苦手な領域への補充学習ができた。
- 授業において以下のような「学び合いを深めるための手立て」を用い、学び合いが深まり、学習意欲が高まり、思考力・表現力が向上した。
 - ①学習の基本となる学年の発達段階に応じた「学び合いに必要なスキル」（発表の仕方・聴き方・話し合い方・書き方…ノート指導）の習得に継続的に取り組み、少しずつ成果が表れてきている。発表に意欲的な児童も増え、友だちの意見と比べながら聞く習慣がついた。
 - ②児童の興味関心を生かした学習課題や提示の工夫・授業過程でのペアや小集団の活用・集団解決での学び合いにより、学習への意欲が高まり、学び合いの核となる話し合いへの意欲が向上した。さらに、児童がより良い考え方や多様な考え方を求め、認める習慣がつき、児童に新たな気づきや思考の深まりが生まれた。
 - ③見通し・まとめ・振り返りを意識して授業を行うようになり、授業改善ができた。特に既習事項をもとに児童に見通しや予想を立てさせたことにより、自分の考えを持つきっかけになり、自力解決の力がついた。学年の実態に応じた振り返りやまとめは、学びの成果や自分の変容などにも気づかせる糸口になった。
- 一人一実践の授業開示やブロック提案授業は、互いに学び合い、授業力の向上につながった。
- 朝の学習を継続してきたことで学習の基礎づくりができ、家庭と連携した家庭学習の取組により、家庭での学習習慣がついた。これらの基盤づくりが授業の改善と相まって、CRTでは学力の向上が見られた。